

## (10)九州



九州地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、緩やかな改善傾向にある。

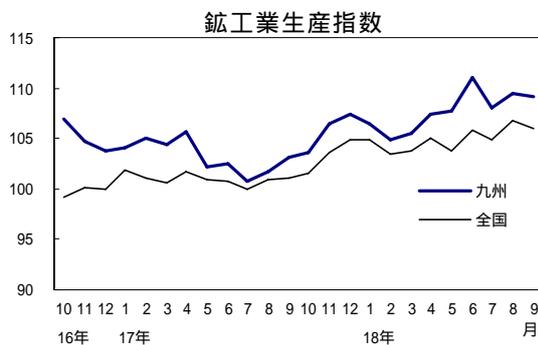
### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成 18 年 8 月）	今回（平成 18 年 11 月）	
住宅建設	大幅に増加	減少	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産は増加している。

電子部品・デバイスは、クリスマス商戦に向けたゲーム機や音楽プレイヤー向けのIC、車載向けや薄型テレビ向けの高付加価値LSI等が好調なことから、引き続き増加している。輸送機械は、自動車は、アメリカ、アジア、ヨーロッパ向けの輸出が引き続き好調なほか、軽自動車の生産が好調なことから増加している。一般機械は、半導体製造装置やフラットパネル・ディスプレイ製造装置が、国内外でのおう盛な需要を背景に堅調に推移している。食料品・たばこは、これまで非常に好調であった本格焼酎の生産が一服したことから減少している。化学は、カプロラクタムやポリプロピレンといった汎用プラスチック樹脂や自動車向けの合成樹脂の需要が堅調なことから増加している。



#### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4～6 月期	7～9 月期	7～9 月期	7～9 月期
電子部品・デバイス	14.9	1.7	8.2	8.2	13.3
輸送機械	11.7	1.0	0.4	0.0	14.1
一般機械	11.0	5.2	0.2	1.4	9.1
食料品・たばこ	10.8	3.8	7.7	6.3	16.2
化学	8.5	2.8	2.6	3.5	7.5
鉱工業	100.0	3.0	0.1	0.3	1.7

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

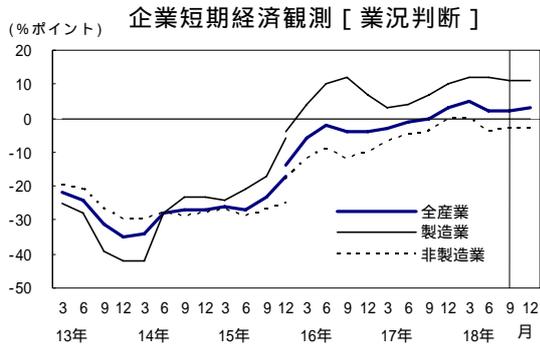
2. 7～9月期は速報値。

(備考) 1. 12年=100、季節調整値。

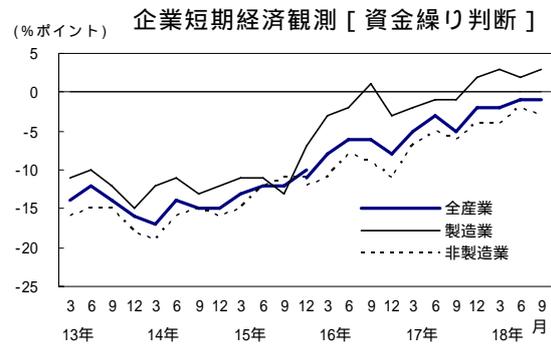
2. 平成18年9月の九州は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

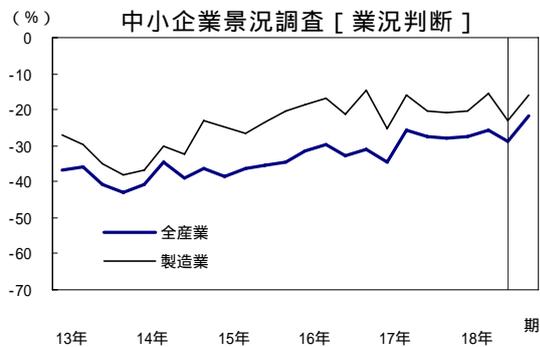
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。18年12月は予測。  
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。18年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「取引先の輸送関係の会社で、燃料費の高騰が響いており、かなり苦しいという話を聞く。衣料品関係等は天候が良かったため秋冬物の販売が伸びていない(経営コンサルタント)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

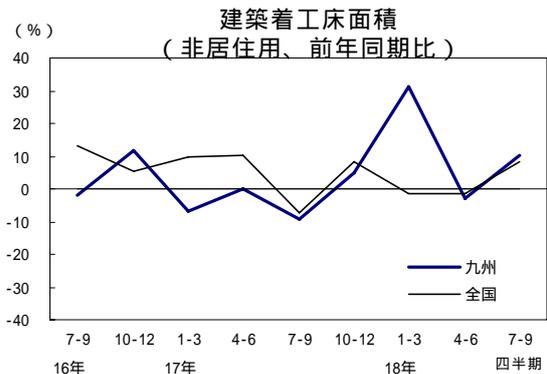
(3) 18年度の設備投資は前年度を下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

(前年度比、%)

	17年度実績	18年度計画
全産業	6.1( 0.1)	2.3(2.0)
製造業	17.1( 0.5)	11.5(3.1)
非製造業	0.8( 2.1)	4.6(1.4)

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。



## 2. 需要の動向

### (1) 個人消費は持ち直している。

#### 大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

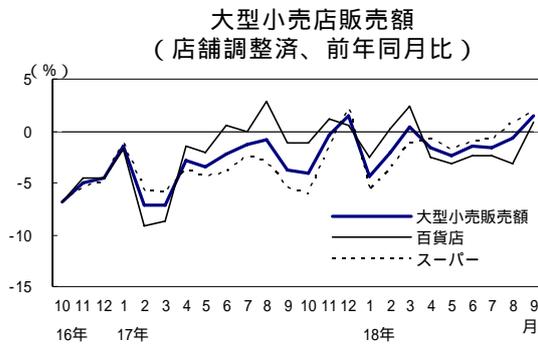
百貨店は、7月は、クリアランスセールは好調であったものの、梅雨明けが遅れ、月後半も雨が多かったことから夏物衣料など季節商品の動きが鈍く、全体としては前年を下回った。

8月は、夏物最終セールが好調であったほか、高級ブランドバックや紳士・婦人靴など身の回り品にも動きがみられたもの、残暑が続いた影響から秋物衣料の立ち上がりが悪く、全体としては前年を下回った。9月は、台風の影響が一部みられたものの、気温が低めに推移したことから主力の衣料品の動きが良く、またバックや旅行用品などの身の回り品、飲食料品にも動きがみられたことから、全体としては6ヶ月ぶりに前年を上回った。なお、九州百貨店協会によると、九州地区の10月の売上高は、前年同月比で2.9%減となっている。

スーパーでは、主力の野菜、精肉、鮮魚といった飲食料品の動きが良く、また衣料品も9月以降秋物の動きが良かったことなどから、全体としては17四半期ぶりに前年を上回った。

#### 景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「客単価は増加基調の店も出てきているが、来客数は前年を割っている。結果として売上は前年を大きくクリアすることはなく、一進一退で動いている(コンビニ)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



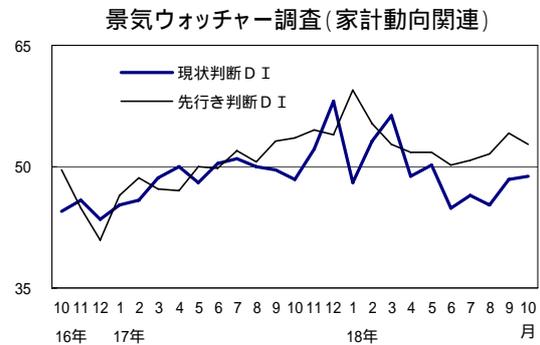
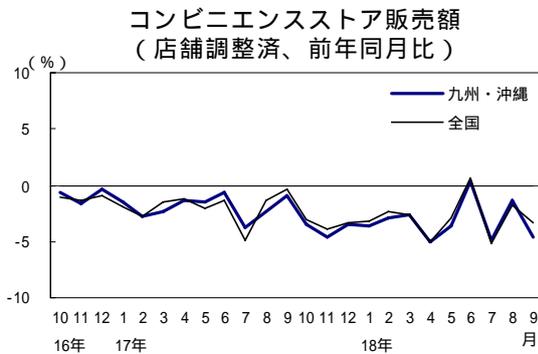
(前年同期比、%)

	17年10-12月	18年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	0.7	2.1	1.8	0.4
百貨店	0.2	0.0	2.7	1.7
スーパー	1.5	3.7	1.2	0.5
コンビニ	3.9	3.1	2.8	3.6
景気ウォッチャー	52.9	52.5	48.0	46.7

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

九州・沖縄地区。

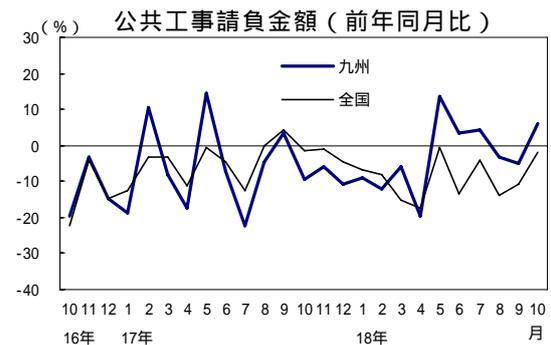
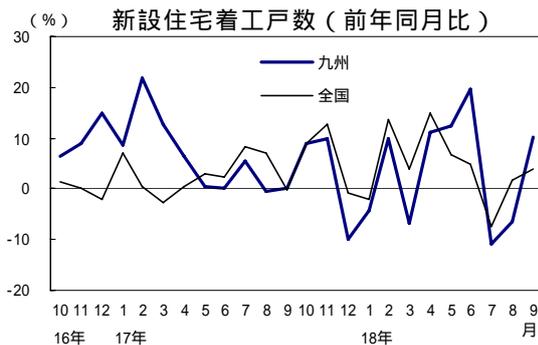
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



### (2) 住宅建設は減少している。

持家、分譲が前年を上回ったものの、貸家が下回ったことから全体では減少している。

### (3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

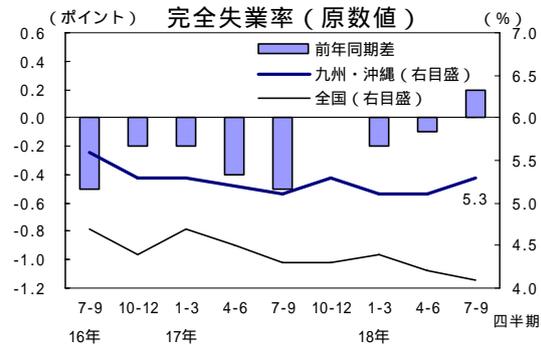
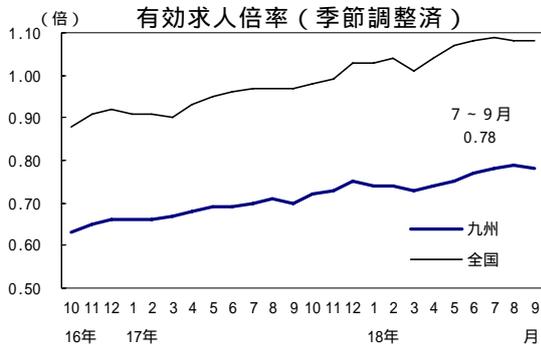


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、緩やかな改善傾向にある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査（10月）[雇用関連（現状）]

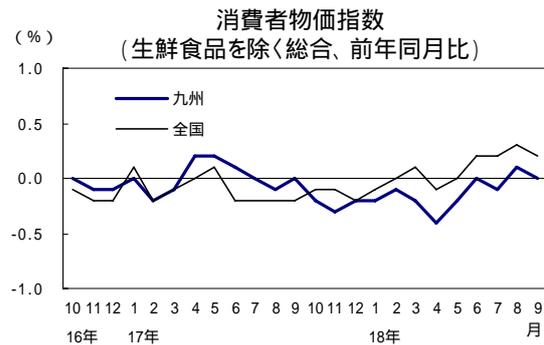
「3か月前と極端には変わらないが、秋採用の求人依頼が堅調である（学校[大学]）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	17年10-12月	18年1-3月	4-6月	7-9月	18年10月
倒産件数	237	259	286	269	87
(前年比)	20.7	5.8	9.2	0.4	2.2
負債総額	825	1,259	1,020	483	279
(前年比)	21.4	44.3	44.7	57.9	38.0



景気ウォッチャー調査（10月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・前年比 115%で推移しており、海外ではヨーロッパの高額商品、国内は北海道・東京等の遠距離商品が好調である。国内航空券販売が復活し、出張も増加傾向にある（旅行代理店）。

<先行き>

・公共土木工事は減少しているが、民間の建設需要は引き続き堅調で契約量が増加しており、製品の出荷量も順調である。今後、更に大型物件の引き合いが出てくる見込みであり、需給がタイトな状況が続く。このため販売価格も更に上昇する（鉄鋼業）。

景気ウォッチャー調査（合計）

